



「こんにちは 市長です」

10月1日号

ずいぶん昔の話ですが、櫻田淳さんという重度の脳性小児まひを患った方にお会いしました。彼は代議士の政策秘書をしていましたが、そのことにお会いしたのではなく、「福祉」のことを勉強したいと思って東京駅の喫茶店で待ち合わせました。彼の著書『「福祉」の呪縛』という本を書店で目にし、「障がい者には魚の釣り方を教えてやって欲しい」、この内容が衝撃的でした。今は違いますが、以前の福祉というのは「魚を持って行ってあげる」が主流で「〇〇してあげる」が福祉でした。彼と話をする中で、手も足も、表現しようとする顔も「これは不自由だ、生活も大変だろうな」と感じました。けれど、彼の頭の中は動きます。彼を採用した代議士は立派、得意とする防衛問題が彼の仕事と言っていました。国は企業や自治体に障がい者雇用を義務付けていますが、衆参議員会館内で今何人の障がい者が働いているか、ひょっとしたらゼロ？きっとそんなことないですよ。彼には太田で講演してもらいました。

私は市長になって福祉工場をつくりたかったのです。櫻田さんの「魚の釣り方」です。アルミ缶とスチール缶の分別機を導入し、その金属をインゴットにして販売する福祉工場、M法人にお願いしています。太田駅南口や主要幹線に咲く四季折々の花も福祉工場をつくっています。付加価値のある仕事をして給与を得て生活していく、市役所前にあるスワンベーカーもそんな発想で誕生しました。新年度は「(再生)紙を再生させて役所などで再利用する」事業に取り組もうと思っています。その職場の主役は障がい者にできないかと。

今日は市民会館で敬老会がありました。司会は障がい者のTさんです。NHKのアナウンサーにしたいくらいいうまかったです。

(9/19 記)